

医心伝心 トチギ医ズム

~Tochigi Doctor's Voice~

とちぎで学び、働きたくなる出会いがここにある。

竜頭滝のトウゴクミンハツツジ

Doctor's Interview

#01 総合診療医対談『時代に求められる力 総合診療』

矢吹 拓先生 / 志水 太郎先生

#02 女性医師対談『“キャリアも子育ても諦めない”栃木県での働き方』

竹田 幸代先生 / 齋藤 敦子先生 / 佐藤 恵美先生

#03 若手指導者対談『指導者の役割とは』

鈴木 智大先生 / 北川 清宏先生

病院紹介

#01 国際医療福祉大学病院

#02 新小山市民病院

#03 佐野厚生総合病院



とちぎ

地域医療支援センター

特集 | 総合診療医対談『時代に求められる力 総合診療』

総合診療の若手リーダーが語り合った
総合診療医を目指す意義と
栃木県でキャリアを歩む魅力について



高いニーズがあり、キャリアパスも多彩。
総合診療医を目指すなら栃木県で！

獨協医科大学病院 |
総合診療医学 総合診療科 教授

しみず たろう
志水 太郎 先生

出身地 東京都
出身大学 愛媛大学医学部(2005年卒)

国立病院機構 栃木医療センター |
内科副部長・内科医長

やぶき たく
矢吹 拓 先生

出身地 埼玉県
出身大学 群馬大学医学部(2004年卒)

総合診療医の専門性は

一人ひとりの患者である

矢吹先生：私は最初から総合診療医を志していたわけではなく、大学卒業後は小児科に入局しようと決めていたんです。でも、卒業した2004年は初期臨床研修制度が義務化した年でした。2年間、いろんな診療科で研修していくなかで、小児科に診療範囲を限定せずに、もっと幅広く診療したい、普通のことができるようになりたいと考えるようになりました。それが総合診療に進むきっかけでした。

志水先生：私も初めから総合診療医の道に進もうと決めていたわけではないんです。きっかけは10年目くらいまでに勤務した様々な場所で何でも断らずに診なければいけなかったこと(笑)。でも、それが患者さんにとって良いことだと思いましたし、医師である以上、目の前に困っている患者さんがいたら、どんな状況であっても診療できなければならぬと感じたんです。それが現在のキャリアにつながっています。

矢吹先生：私たちの時代とは異なり、2018年には19番目の専門領域として総合診療専門医の研修がスタートするなど、体制が整備され、学生時代から総合診療に興味をもつ人も増えてきていますが、実際に総合診療医を目指す医師は、まだまだ少ないのが現状です。

志水先生：要因の一つとして、臓器別とは異なり専門性やキャリアパスが見えにくいことが挙げられるでしょう。



矢吹先生：臓器別専門医の領域では、何を学ぶか、何を研鑽すべきかといった指標が比較的明確なことが多いですが、総合診療医の専門性は概念的なものが多く少しわかりにくいですね。

志水先生：扱う領域は広く、問題解決されていない未分化の疾患と対峙することも多いですからね。

矢吹先生：総合診療医のコンピテンシーだけでは、具体的に何をすれば良いか見えにくいという声も聞かれます。

志水先生：それと、総合診療医は幅広い診療知識が必要なので勉強が大変だというイメージをもっている方も多くいます。でも、勉強量はその領域に進んでも差はないと思います。たとえば眼科の先生は目のことはものすごく詳しい。知識の掘り方が違うだけなんですよ。

矢吹先生：総合診療医の専門性は様々な専門性を横断的に越境していくことにあると

思っています。私達の担当する領域は、場所や患者さんによって異なり、患者さん個別の状況や背景（コンテキスト）に合わせた診療を行うのが特徴ですね。

志水先生：総合診療医の専門性は何かと言われれば、一人ひとりの患者さんを全体としてケアできる力だと思っています。

矢吹先生：患者さん一人ひとりの訴えや悩みの最初の相談役として対応しつつ、様々な専門家と協働しながらその患者さんにとって最適な解決方法を導きだすのが総合診療医なんですよ。

志水先生：私のところ（獨協医科大学病院総合診療科）には他県からも診断が難しい患者さんが訪れますが、総合診療医の役割は診断を付けることが必ずしも中心ではなく、患者さんの心身の健康面、生活背景、経済状況などを包括的に診て、その患者さんの本質的な問題を見つけ、解決に導くことが大事な役割ということも多いです。

矢吹先生：それをできるのが総合診療医ならではの強みですよ。

総合診療医は時代のニーズにますます必要不可欠な存在に

矢吹先生：日本は高齢化が加速しており、複数疾患や多様な問題を抱えている患者さんも多くなっています。総合診療医は、そうした複雑性や不確実性が増すなかにあっても問題解決を図ることができる医師です。これからの日本の医療にとって総合診療医

の必要性が高まり、活躍の場は広がると思っています。



志水先生：複数疾患を抱え、複雑性や不確実性が増す現在の診療において、幅広い疾患を診ることができる総合診療医の存在はとても重要です。診断が間違ったり遅れたりすることで患者さんの身体的負担も金銭的な負担も増えてしまいます。総合診療医によって正確な診断が行われ、適切なケアを行うことで、患者さんへの負担軽減やポリファーマシー（多剤併用による薬物有害事象）も防ぐことができますし、引いては医療費を抑制できるなど医療経済的にも大きなメリットをもたらします。

矢吹先生：高齢者の中には治療が終わったけど以前のように動くことができない、食べられないといった患者さんも増えてきます。このような状況を特定領域の専門性だけで解決していくのは非常に難しく、専門性を発揮していくのが現状です。一方で領

域横断的な総合診療医は、適切な専門科や他の医療機関につなぐというゲートキーパーやケアの調整役としての役割も担うことができます。諸外国では総合診療医の必要数を政策としてしっかり定めている国もあるほど重要な存在なんです。

志水先生：私が獨協医科大学病院に総合診療科の開設で着任した際、最初に病院から言われたのは、『みんなを助けてほしい』という言葉でした。救急で困ったら診てほしいし、難しい診療があれば助けてほしい。総合診療医はそれができる医師たち。先生方や多職種の方々からも必要とされていますし、感謝されることも多いですよ。

矢吹先生：これからの時代、総合診療医はクリニックにも市中病院にも大学病院にもますます必要となるでしょう。総合診療医がいろんな場所にいることが当たり前になってほしいです。



志水先生：総合診療医を増やすには、若い先生方に総合診療についての魅力をもっと知っていただければいいと思います。

矢吹先生：若手にとって、総合診療医のキャリアパスについて明確に示していくことが重要だと思います。

志水先生：キャリアパスというと、総合診療の魅力の一つとして、一生続けられることが挙げられます。年齢による体力や視力の衰えなどによって腕が鈍ることはありません。むしろ蓄積されてきた知識と経験が大きな武器となっていくと思います。



矢吹先生：総合診療医ってキャリアとしてどうなんだろうと心配される方も多くいますが、活躍の場は幅広く、キャリアパスは多彩だと感じています。私自身は、大学の医局に一度も所属したことがありませんが、市中病院で成長することができていますし、総合診療医という仕事に大きなやりがいを感じています。若い先生方に総合診療医と

して楽しく仕事をしている姿を見せることも我々の大事な役割だと思います。

志水先生：総合診療医は大病院、クリニック、在宅医療、そして都市部、へき地と、どんな場所でも活躍できることや、どのような業務でも自分で選択できることから職場の幅も広がることや、臓器別の医師ができない案件も担当できることもあるので、結果的に売り手市場で、OOPの高さも特徴です。地域医療を支えたり、各診療科につなぐ役割を担ったり、医師偏在問題を解決に導く存在でもあり、社会貢献度も非常に高い分野だと思います。

総合診療の素地があり 研修環境としても最適

志水先生：「大病院はコモンな疾患があまり診られない」と言われがちですが、少なくとも栃木県の場合は違うのではないかと思います。都内のように周りにたくさん病院がないため広い範囲から多彩な患者さんが訪れますし、救急なども多く受け入れるので大病院であってもコモンの経験を豊富に積むことができます。

矢吹先生：栃木県には2つの医科大学がありますが、自治医科大学は地域医療を支える医師を養成する特殊性がありますし、獨協医科大学も比較的新しくできた医学部なので、大病院がその地域を強力にマネジメントしている県とは異なるんですよ。私が初めて栃木県に来て驚いたのは、病院に勤務している先生方のバックグラウンドが多様多様であること。外から来る人に対



してとても優しく迎えてくれる風土があることでした。また、地域で働いている先生方の中にも総合診療的な考え方を活かして活躍されている先生方が多いです。

志水先生：多様なバックグラウンドのある医師や指導医がいることは、いろんな考え方や臨床に向かう姿勢を吸収できるなど、研修やキャリアを歩む上でも魅力ですよね。

矢吹先生：栃木県は医師数が少ないこともあり、総合診療を実践されている先生方がたくさんいます。また、栃木医療センターの内科では、専門医が少ない分、ゲートキーパーとして総合的に診ることが普通の診療体制になっているので、特別なことをしている感じはないんです。栃木県には総合診療医が活躍できる素地があり、総合診療を実践する力を獲得しやすい環境だと思っています。

志水先生：栃木県は初期研修の場としても非常に最適な環境ですよ。こういう言い方は適切でないかもしれませんが、栃木県は、どの診療科でも質が高く多様な経験値を積むことができる研修の“穴場”だと思っています。宇都宮から東京まで新幹線で約1時間とアクセスも良いことも魅力です。

矢吹先生：総合診療専門研修プログラムの連携についても重要だと感じています。自治医科大学、獨協医科大学、当院（栃木医療センター）など、総合診療専門研修プログラムのある病院同士が普段から密に連携を取っており、月に一度、合同の連携会議を開催して情報交換を行ったり、栃木県内の総合診療専門研修プログラムの専攻医たちが定期的に集まってポर्टフォリオの合同発表会や勉強会を開催したりしています。

志水先生：栃木県は総合診療医を目指すのに最良の環境だと思いますし、総合診療の力を獲得しやすいため初期研修・後期研修の場としても相応しい場所だと思います。






—— 医学生や研修医の方々へ ——
メッセージ

志水先生：医師になって最初の10年間は医師としてのスキルや人格形成のベースをつくるのにとっても重要な時期です。この時期は、たとえば腕立て伏せを10回するとしたら、11回目まで追い込んでみる意識が大切。あと一回の頑張りですが、10年後に大きく生きてくるはずですよ。最初の10年間は、もう一歩踏み込んでみることを意識して研修や自己研鑽に努めてほしいですね。素晴らしい医師人生が待っているはずですよ。自分のできること、やれることを一所懸命に頑張ってください。

矢吹先生：将来どの診療科に進むにしても、ひとつひとつの経験をじっくり丁寧に取り組み、振り返ることが重要だと感じています。患者さんと出会ったときに、生物医学的なことだけではなく、患者さんの背景を知り、コミュニケーションを学ぶことが、医師としてのやりがいや楽しさにもつながります。また、結果的にそういった姿勢は患者さんにとってもプラスになると思います。日々の丁寧な診療の積み重ねによって、10年後は今では想像できないような違う景色が見えるようになっていくはずですよ。栃木県にはそれを一緒にできる多くの仲間がいますし、ロールモデルとなる優れた総合診療の先輩もたくさんいます。一緒に皆さんと成長していければと思います。

 勤務先病院紹介

国立病院機構

栃木医療センター

～当院の理念は、信頼、協働、貢献です～

〒320-8580
栃木県宇都宮市中戸祭1丁目10番37号
☎ 028-622-5241



学校法人獨協学園

獨協医科大学病院

～プライマリ・ケアから先進医療まで豊富な症例経験が可能～

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
☎ 0282-86-1111





佐野厚生農業協同組合連合会

佐野厚生総合病院

〒327-8511 栃木県佐野市堀米町1728番地

☎ 0283-22-5222

🛏 病床数：531床 🏥 診療科：21科



地域の急性期医療を担うため 進化・発展し続けている病院です

**5 疾病5事業に
感染症を加えた
6事業を担う急性期中核病院**

佐野厚生総合病院は佐野市の急性期医療を支えるため、2022年9月に慢性期病棟を閉鎖して急性期病床を増床。ケアミックス型病院から急性期病院へと転換し、『5疾病5事業に感染症を加えた6事業をやりきる中核病院』を使命に取組んでいます。

「栃木県がん診療連携拠点指定病院」として高度ながん診療の提



病院長・研修センター長

むらかみ まろひと

村上 円人 先生

出身地 | 神奈川県

出身大学 | 慶應義塾大学医学部(1984年卒)

立ち向かい、地域の一般医療も守ってきました。

当院は地域の中核病院として多彩で豊富な症例数を有しています。診療科間の垣根は低く、初期研修では幅広い臨床経験によって基礎力と総合力を確実に習得することができます。さらに当院は内科専門プログラムの基幹病院であり、3年目も継続して研修を続けることができます。各専門内科が一つの体制としてまとまっているため、たとえばサブスペシャリティである腎臓専門医と糖尿病専門医を同時に取得することも可能です。

人材は病院のエネルギー
一人ひとりが
活躍できる病院に

ここ数年で若い医師や看護師も増え、当院は活気にあふれています。人材は病院のエネルギーであり、若い人材が集まる魅力ある病院にするには、優れた医療チームの構築とイノベーションが大切だと考えています。

私は福沢諭吉氏の「半学半教」（上下関係なく、互いに学び教え合う）の精神を、組織の在り方や教育体制の土台としています。パワハラを根絶し、年功序列ではないスキル重視の評価により責任



と誇りをもって働くことができる病院、そして教えあひながら学び、共に成長できる病院を目指しています。

また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や県内で一番新しいX線循環器診断システムの導入といった医療機器の刷新、そして「ICT化」によるイノベーションも積極的に進め、医師一人ひとりの意欲と能力を存分に発揮でき、高いモチベーションをもって働くことができる環境も整備しています。

「鉄は熱いうちに打て」と言われるように、初期研修の2年間は全ての診療科を学ぶことができ、

たくさんの失敗体験によって大きく成長できる大切な期間です。研修医のみなさんには、急性期病院として進化・発展を続ける当院の医療環境を存分に活用していただき、多くのことにチャレンジしてほしいと思います。



豊富な症例数と自由度の高さが特徴。 教育体制も職場環境も素晴らしい病院です



研修医2年目

おのだ れい

小野田 怜依 先生

出身地 | 東京都

出身大学 | 慶應義塾大学医学部(2021年卒)

個々の多様性に柔軟に対応した 自由度の高い研修プログラム

研修病院選びの条件として、都市部の病院ではなく、研修医であっても主戦力の一人として多くの症例を経験できる地域の基幹病院を探していました。佐野厚生総合病院は出身大学の関連施設ということで知っていましたし、佐野市の急性期医療を支える中核病院であるため多彩で豊富な症例が集まることや、東京に近いことにも魅力を感じ、当院での研修を強く希望しました。

自由度が非常に高く、多様なニーズに対応できる研修プログラムが特徴であり、国が定める必須の診療科や期間をクリアできれば、

希望の診療科を自由にローテートすることが可能です。研修スケジュールは変更も柔軟に対応していただけますし、研修中に志望科が変わっても融通や調整が利き、個々の多様性や目標に合った最適なローテーションを組むことができます。

研修医は一学年6名と、病院規模(531床)に対する研修医数が少ないことも魅力です。同じ診療科を2人同時に回すことはなく、症例の取り合いも一切ないので、存分に症例や手技を経験することができます。各診療科で経験した症例や学びを研修医室に持ち帰り、情報交換や相談をし合ったりと、お互い支え合いながら成長できる環境です。

進化・発展し続けている病院 雰囲気の良いも抜群です

当院は積極的に新しいことを取り入れ、目に見えて進化・発展し続けています。

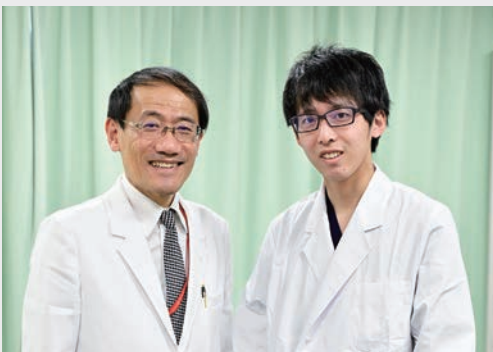
地方にありながら、産婦人科や小児科も非常に充実しており、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や心臓カテーテル室にはX線循環器診断システムの最新機器が導入されるなど、ここ数年で設備環境も刷新されています。2022年にはDMATも確立し「地域災害拠点病院」の指定になるなど、地域を支える急性期病院としてどんどん充実化が図られています。スタッ

フのみなさんは自信と誇りを持って働いていますし、院内は活気にあふれ、研修医のモチベーションも非常に高いです。

看護師や多職種との連携も密で、関係性も良く、アットホームな環境も魅力です。みなさん話しかけやすい雰囲気です。聞けば丁寧に答えてくださるなど、こうした環境は研修医にとって大きな安心ですし、とても心強いです。

当院は医療環境、職場環境、教育環境と、どれも素晴らしく、研修の場としてこれ以上ない最適な病院であり、自信をもってお勧めします。

研修病院を選ぶ際に大切なのは、病院見学によって雰囲気や自分にとっていいのかどうかを知ることです。ぜひ一度、当院に見学に来ていただき、雰囲気の良さも実感してほしいと思います。





栃木県イメージキャラクター
「とちまるくん」

とちぎ地域医療支援センターの取り組み

栃木県の様々な支援制度・事業をご紹介します。



医師のみなさまへ

無料職業紹介事業

職業安定法に基づき、栃木県内の病院・診療所に就職（常勤・非常勤）を希望する医師の方に対して、医師を必要としている医療機関を紹介・斡旋します。

詳しくは
こちらから



ドクターバンク事業

医師不足に悩む公的医療機関等に派遣する医師を随時募集しています。栃木県一般任期付職員（ドクターバンク医師）として採用します。任期は3年間です。

詳しくは
こちらから



医学生のみなさまへ

医師修学資金貸与制度

- [対象者] 将来、産科医または小児科医として、栃木県内の公的医療機関等に勤務する意志のある全国の医学生。
- [貸与額] 年額300万円（月額25万円×12月）
- [返還免除] 次の2つの条件を満たした場合に貸与した修学資金の返還を免除します。
 1. 医師免許取得後、初期臨床研修を栃木県内で行うこと。
 2. 栃木県内の公的医療機関等において、産科医又は小児科医として修学資金貸与年数の1.5倍の期間勤務すること。

詳しくは
こちらから



詳細については
県のHPをご確認ください



臨床研修医・専門研修医等のみなさまへ

[各種支援事業]

研修セミナー／臨床研修医向け

研修医同士の情報共有や尊敬できる指導医を見つけるきっかけづくりに、研修セミナーを年1回開催しています。



[研修支援事業]

若手医師（免許取得後5～15年以内）向け

若手医師のスキルアップのため、一定期間（研修期間の2倍以上）県内医療機関で勤務することを条件に、国内外での研修に関する費用（旅費・滞在費・研修受講費等）を補助します。詳細については県のHPをご確認ください。

詳しくは
こちらから



とちぎ地域医療支援センターサテライトのご案内



県内医療機関での研修や就職に関する相談・情報提供の窓口です。相談員が電話やWEB・対面による面談等で対応します。サテライトに登録すると、県の支援制度・事業をはじめ、県内で活躍する医師の方々の紹介等の情報を定期的にお送りします。栃木県での勤務や研修に興味がある方、将来とちぎに帰りたいといった方は是非ともご利用ください。

とちぎ
地域医療支援センター
サテライト

ご登録は
こちらから



ご質問・お問い合わせは下記電話番号へ
お気軽にご連絡ください。

受付時間：平日9時～17時

TEL 03-4565-9440

サブ 03-4565-9871

とちぎ地域医療支援センター

〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20 県庁舎本館4階
TEL 028-623-3145



ホームページは
こちらから

栃木県

人口：約200万人
臨床研修病院：11施設
病院数：107施設
200床以上は30病院
（令和3年4月1日時点）

